

お米の神様

請西小学校 三年一組 手塚 雄介

夏休みが始ま、てすぐの夕方、ぼくは、お母さんにたのまれてお米をとぐ手つだいをしていた。水をき、て、新しい水を入れようと、台の上におこうとした時、手がすべ、て、おかまをおとしてお米をばらまいてしまいました。ゆかもかべもお米だらけで、かたづけなくちゃ、と思、てそうじきですおうとしたら、お母さんに、

「お米を作るのはとてもたいへんなのだから、すてるなんても、たいない。手伝うから、い、しよにひろおう。」

と言われました。ぼくは保育園の時に先生がお米には一つぶ一つぶの中に神様がいると言っていたの思い出しました。

ぼくはお母さんとい、しよに手ですくってボールに集めました。日も多か、たし、ぬれたお米はく、ついてなかなかとれなく、全部集め終、るまでに三十分くらいかかりまし

た。お米にはゴミがたくさんついていて、このゴミをどうやってとるのかな。と思っ
ていました。すると、お母さんはボールに水を入
れてゴミをうかべては、水を取りかえました。
何度も何度もくり返すうちに、ゴミがべっ
きて、ぼくは「すごいな。」と思いました。そ
の日のごはんはいつもよりなんだかおいしか
ったです。

その日の夜、ぼくはどうしてお米に神様が
いるのが気になってお米について調べるこ

とにしました。本には一本のいねから七十つ
ふくらしいのお米がとれると書いてあったので、
いっさいに数えてみると一口分くらいしかあ
りません。ぼくはびっくりしました。お米を
作るには水と太陽と作る人のがんばる力がひ
つようです。その上、一本からはこんなに少
しかとれないなんて、お米の中に神様がい
ると言われているのは、お米を大事にしたま
いということだと思いました。ぼくはこれか
ら、一つぶものこさがに食べようと思います。